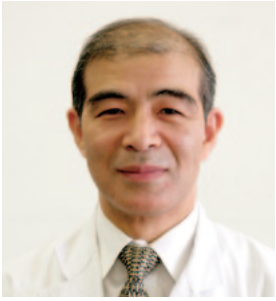
笑顔のひろば「第17号」
平成24年1月19日

発　行
川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本 2-1-5
TEL:044-299-4781（代）
FAX:044-299-4788

さらに進化し、地域医療を担う。



川崎協同病院院長
大山 美宏

皆様新年あけましておめでとうございます。

昨年は、回復期リハビリテーション病棟の増設に伴い、各病院には、連携を一層強めていただきまして、ありがとうございました。

また、病院にお伺いした際にも、丁寧な対応をしていただきましたことに感謝しております。

おかげさまで、北2階の回復期52床は、すぐに一杯となりました。整形で40床前後、廃用症候群で8床前後、神経内科関係で2床前後となっております。各病院からの紹介患者様もできるだけ早期に受けようと努力し、待機日が12日前後と短縮できております。

リハビリ技師はどこでも獲得が大変な状況で、学校においては定員割れを起こしているようです。当院も全国行脚しておりますが、四月から365日のリハビリができるように努力してまいります。

当院は、基幹型研修病院で、この二年間は、3名の定員フルマッチで研修医をむかえております。現在6名の研修医が研修を行っており、医局は大変活気があり、かつ女性医師も多く華やいでおります。二年目研修医が、NHK総合テレビの総合診療医ドクターGに出演する機会があり、沖縄中部病院、虎ノ門病院、諏訪中央病院の研修医に伍してトップ当選と言ってもいい、活躍をしてくれました。

医局が盛り上がったのは言うまでもないのですが、医療生協の組合員さんである地域の方が大変喜んでくれました。ありがたいもので、このような環境のもとで研修ができる彼らにとって励ましにもなります。

この8月31日、NPO法人第三者研修評価機構の研修評価を受けました。昨年の4月から総合診療チームをつくり、本格的な屋根瓦にて研修を始めての評価となりました。

サーベイヤーで特別に顧問で参加していただきました岩崎栄先生から「このような病院で研修できる研修医たちがうらやましい。私が若くてもう一度研修できるならこの病院で研修した」というコメントまでいただくことができました。ご多聞にもれず毎日医師諸君にサマリー記載を叱咤激励した結果でしたので、誇らしい気持ちとなりました。

2012年度も2名の研修医が来ることになっており、地域医療を担う医師を地域の中で育てるという地域の病院としての責務を担っていく決意を固めているところです。

3月には財団法人日本医療機能評価機構の医療評価を受診する予定となっております。さらに安全でシステムとしても患者の人権を守る病院として前進させていきたいと思っております。

今後とも地域の皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

NEW FACE

地域医療連携室だより

10月にソーシャルワーカーとして入職しました辻井奈々です。出身は東京で、これまで横浜市内の病院で約5年務めていました。昨年神奈川県に越してきたばかりで、まだ川崎市内の地理も把握しきれていませんが、川崎市は実家と近い地域なので馴染みを感じています。

これまでもたくさんの患者さん、ご家族と関わる中で多くの医療スタッフ、地域の方々とも協働し、いろいろなドラマがありました。中には自信を失ったことや自分の価値観について考えさせられ、その当時は悩んだこともありましたが、仕事を通して成長させてもらえるのが、ソーシャルワーカーの醍醐味かなと思っています。

とはいえ今は不安なことばかりなので、みなさまに一つ一つ教えていただきながら早く環境に慣れ、一人前に働けるようになっていきたいと思っています。

よろしくお願いします。

ソーシャルワーカー　辻井 奈々

川崎協同病院では、地域を担う医師を育てるため 1976 年から研修医の受け入れを行っており、2004 年からの臨床研修制度も合わせると、200 人を超える研修医を育ててきました。大変なこともありますが、初期の２年が終わるときにはその感動もひとしおです。

それぞれの年で１名の時があったり６名の時があったりするのですが、今年は１年目と２年目を合わせて６名が研修しています。毎年特色があるので、今年いる研修医たちを一言で言い表すことはできませんが、たくさんの指導医や上級医、多職種に教えられ、支えられ、はたまた研修医の側から支えながら、成長しています。

今回はこの場を借りて、当院の研修を少しご紹介したいと思います。

病院の皆とともにある研修

２００４年の研修必修化以前から、当院の研修は「スーパーローテート」で様々な科を回るやり方です。厚生労働省が出している研修理念にも言われている基本的な診療能力はもちろん、私たちが必要とするプライマリケアの力を身につけるためにも、一つの科だけではなくいくつもの科を回ることが大切だと考えているからです。

内科、外科、小児科、産婦人科などなど当院にある診療科だけではなく、協力施設で神経内科や脳神経外科、精神科などを回ります。回っている間は、指導医、上級医からの指導はもちろん、他科の先生にも相談しながら、一つ一つの症例、一人一人の患者さんを大切にしながら研修していっています。

育てるのは医師だけではありません。当院の研修は多職種参加型で、日常的に看護師はじめ薬剤師や臨床検査技師なども協力して研修医の指導に当たります。病院全体で研修医を育てるという風土のために、研修医は医師としての技術だけでなく人格も養うことができるのです。

患者さんの退院後が心配ならば、付いて行ってお宅の様子を確認することもあります。疾患だけではなく、患者さんの背景までみる。研修プログラムにも書かれている川崎協同病院が大切にする考え方も、日々の医療を通して学んでくれています。

研修医会

病院から与えられる学びだけでなく、研修医同士が学びあう場もあります。当院では「研修医会」と呼ばれていますが、主には初期研修医から後期研修医までが自分たちで勉強し、お互いに発表して教え合うことによって、自分たちの知識や技量を高めています。

頻度は週1回で、講師役を持ち回りでこなしているのですが、もちろん若手の医師同士だけでなく、時にはベテランの医師にもレクチャーをお願いして積極的に知識を吸収しています。

ある日の採血の練習風景

患者さんの外出に付き添ったりもします。

研修医会にて。BLS もやります。

SPECIAL REPORT

川崎協同病院の研修医たち

地域の方々への医療講演の一幕

受審当日の様子。
答える研修医は緊張気味です……。

講評を聞く職員一同。
たくさんの人が集まってくれました。

地域の方々と

当院は医療生活協同組合の病院で、組合員さんと様々な場面で一緒に活動しています。そのうちの一つ、地域保健予防活動に参加して、例えば医療講演の講師を務めることも大切な研修です。病気の人だけを対象とするのではなく、健康な地域の方々へ、医療講演などを通して一緒に健康を作っていくことの大切さを学びます。

また、月に一度開かれる研修の到達度を評価する会議にも、地域の方々の代表として医療生協の組合員さんに出席いただいています。地域の方々が研修医をどう見守っているのか、どう育ってほしいと思っているのか。組合員さんから言われる言葉も、医師としての成長に重要な役割を持っているのです。

第3者機能評価受審。そして……

研修医も含めて私たちは良い研修ができていると思っています。そのことを客観的に示すためにも、2011年8月31日にJCEP（卒後臨床研修評価機構）の評価を受審しました。

書類審査から病棟でのインタビューまで。多職種の方々にも普段の様子を話してもらったりしながら、審査は進んで行きました。

最後の講評では「私が若かったらもう一度この病院で研修をしたい」とのお言葉まであり、一月後に届いた結果も通常2年の期間認定のところ、4年の認定をいただきました。自他ともに私たちの研修が良いことが認められ、皆の自信につながりました。この評価に満足することなく、もっと良い研修としていくために努力していきたいと思います。

研修期間が終了した後の研修医の進路は様々です。もっと専門的なことを勉強しに行く人もいますし、地域に密着した医療を目指す人もいます。いかなる進路を選ぼうとも、川崎協同病院で研修したことに自信を持って、得たものを活かして歩んで行ってほしいと思います。

2年目の研修医が初期研修を修了するまであと少しです。彼らはどのような医師になって行ってくれるのでしょうか？

医局事務　会田 佳成

INFORMATION

毎年病院恒例のクリスマス会開催　初めての「ナイトクリスマス！」

12 月 20 日に病院恒例のクリスマス会を行いました。

高校生や一般の方もボランティアとして参加していただき、病院内はとても明るい雰囲気でした。

夕方にはボランティアのみなさんと職員がハンドベル隊となって全病棟を回り、ハンドベルを演奏し、その後に患者さん一人一人にクリスマスカードを手渡して行きました。

患者さんからは「ありがとう」や「嬉しい」という声が聞こえ、笑顔の患者さんや、涙を流して喜んでくれた患者さんもいました。

夜は初めてのナイトクリスマス会でした。研修医のドクターによる合唱や、職員による楽器演奏、ダンス、そして最後は有志職員によるロックソーランで楽しいクリスマス会は幕を閉じました。

患者さんから頂いた最高の“笑顔”と“ありがとう”に触れる度に、「やっぱりこの企画は止められないな♪」と思う職員一同であります。

学生担当事務　宮下 未希

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

地域医療機関および地域の皆さまには大変お世話になっております。昨年は東日本大震災という忘れられない出来事がありました。川崎医療生協では、翌日から支援を行ってきました。まだまだ震災のつめあとが残り多くの課題があります。川崎医療生協では積極的に今後も取り組んでいきます。

その他にも外国人互助会制度の開始、回復期リハビリテーション病棟92床への増床、高校生の夏の1日医師・看護体験、院内の花見や夏まつり、終末期とDNRの指針の改定、新人症例および活動報告会などがあり、もりだくさんの記事を皆様へご報告していくことができました。

今年も皆様に〝わかりやすく・読みやすく〟をモットーにお届けしていきます。

今後とも、本紙と長くお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

事務　小杉 雅美